

「田辺製薬契約研究員、苗登明さんの過労死裁判を支援する会」第2回総会・速報 全薬会議・道修町

2010年6月11日、大阪国労会館にて37名の支援者が参加し、「苗さんを支援する会」の第2回総会が開催されました。これは丁度1年前に京都で開催された第1回総会に匹敵する規模の集会となりました。

オープニングは「友よ闘ってこそ明日がある合唱団」による歌声でした。歌の詩が良かったことに加え、12名という人の数に圧倒されました。次いで、「後につづく者を信じて走れ」を残した井上ひさしとイメージをだぶらせ、今年2月に逝去されました副会長 村田敏史様に黙祷を捧げました。

メインイベントは、勝利した民事訴訟で証人として活躍された榎木（えのき）医師の講演「ポストドク問題とは何か」です。友人や弟さんの抱えてきたポストドク問題解決のため、講演や出版活動で精力的に御活躍されています。ご自身は39歳の臨床病理医ですが、義憤にかられたのが活動の原点とのことです。ポストドクに関する詳細な調査データについて、岩城弁護士が今後の運動に活用出来ると評価されていました。特に力作だったのは、苗さんが逝去された1995年前後にあったこと、そして苗さんが亡くなってから知的労働者の使い捨てが強化されたことでした。「ワーキングプア」という概念がアメリカの新聞記者シプラー氏によって日本に紹介された2007年より前にポストドク問題があったのです。

私見：リハビリによって神経細胞の樹状突起が発達し、新たに形成されるネットワークが障害を受けた神経を代償することが最近分かってきました。この支援に参画される全ての会員が過労死裁判の上告に向け、広範な団体キーマンとネットワークを形成する、そして、その過程で生まれるロマンの数々に期待しています。(鈴木記)



開会前の合唱



宗川会長・挨拶



岩城弁護士・報告



榎木先生・講演



薬害イレッサ弁護団・訴え



小森田副会長・閉会挨拶